

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等社会科指導法			17665	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 博	選択	2	1973年～2011年神戸市立小学校に38年間勤務			

授業の到達目標

小学校における社会科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。
（１）小学校学習指導要領（社会）の目指す理念や目標を理解することができる。（２）小学校学習指導要領（社会）の変遷と今求められている社会科の学力について理解することができる。（３）具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。（４）社会の出来事について関心を持つことができる。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）を養う。

授業の概要

小学校学習指導要領（社会）の変遷を概観し、現行の小学校学習指導要領（社会）に基づき、教育内容と指導法を考察する。教科の特性に応じた情報機器の有効な活用方法や教材研究の方法や学習指導法、評価方法の修得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力、実践力を高める。

授業計画

- 1 社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
- 2 小学校学習指導要領社会の構成
- 3 小学校学習指導要領社会の内容
- 4 社会科教育の今日的課題
- 5 社会科の教材研究と授業の構想：資料の活用と教材化
- 6 社会科の教材研究と授業の構想：授業の仕組みと展開
- 7 社会科の教材研究と授業の構想：学習指導案の書き方と授業の見方、評価
- 8 地域学習の教材研究と授業の構想：教材研究と学習指導案の作成（情報機器及び教材の活用を含む）（3、4年 身近な地域や市の様子 県の様子 生産や販売の仕事 安全を守る働き）
- 9 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（身近な地域や市の様子、地域に見られる生産や販売の仕事、地域の安全を守る働き）
- 10 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（市の様子の移り変わり、県の様子、県内の特色ある地域の様子）
- 11 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（人々の健康

や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動、県内の伝統や文化、先人の働き）

- 12 地理的、現代社会の仕組みや働き、歴史的学习の教材研究と授業の構想：教材研究と学習指導案の作成（5、6年 国土の様子と国民生活、政治の働き、歴史的な事象、自然環境と国民生活との関連、世界と日本の役割）
- 13 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（国土の様子と国民生活、国土の自然環境と国民生活との関連、農業や水産業における食料生産）
- 14 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（工業生産、情報と産業との関わり、国土の自然環境と国民生活との関連）
- 15 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（政治の働き、グローバル化する世界と日本の役割、歴史上の主な事象）

授業の方法

講義にディスカッションと発表を多く取り入れる。

準備学修

「Webで参照すること。」

課題・評価方法、その他

レポート提出（全3回）を求め、講義の中でフィードバックを行う。

『平常点50%、定期試験50%』

欠席について

大学の規定通り

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（文部科学省）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等算数科指導法			17669	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校で38年教員をする。（算数を専門的に研究し、神戸市算数研究会部長を務める）			

授業の到達目標

算数科の教育内容と目標、及び指導法を習得する。教材研究、模擬授業を通して、子どもの主体的・対話的で深い学びを進めるための授業づくりの工夫や留意点を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

算数科の目標、内容、系統性、各領域の特徴を学ぶ。子供のつまずきやすい教材を取り上げ、具体的な指導法を現場での実践成果と絡めながらプレゼン、討議する。学校現場での45分授業の構成、指導案の書き方を学び、模擬授業も行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション ・ 算数科の目標（その趣旨及び要点）
- 2 算数科の内容と構成（領域と概観）
- 3 授業45分間の構成上の留意点
- 4 第1学年の目標及び内容
- 5 第2学年の目標及び内容
- 6 第3学年の目標及び内容
- 7 第4学年の目標及び内容
- 8 第5学年の目標及び内容
- 9 第6学年の目標及び内容
- 10 学習指導案の書き方（1）指導案を学ぶ
- 11 学習指導案（2）指導案を書く
- 12 低学年 模擬授業とふりかえり
- 13 中学年 模擬授業とふりかえり
- 14 高学年 模擬授業とふりかえり
- 15 算数科内容の取扱いままとめと考査

授業の方法

講義と指導法についてのディスカッション、さらに模擬授業、事後の討議などの活動を大切にしていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題 レポートの提出、学習指導案の提出、模擬授業を求め、講義の中でフィードバックを行う。

評価方法 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき4点減点する。

テキスト

「小学校学習指導要領解説 算数編」 文部科学省（H29.6）

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。特別活動の授業発表・研究発表あり。 神戸市で特別活動担当指導主事経験あり。			

授業の到達目標

特別活動の意義、役割、今日的課題について学ぶ。子供の自己実現、人間関係づくり、望ましい集団活動のあり方について専門的な知識や指導力を身に着ける。
kaiseiパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握し、目標と内容を理解する。学級活動の模擬体験や模擬授業を行う。さらに学校現場での実践、学級会活動等での映像を通して子供の姿を捉え、特別活動の理解を深めていく。

授業計画

- 1 オリエンテーション、改訂の趣旨と目標
- 2 基本的な性格と意義
- 3 学級活動の目標と内容
- 4 学級活動の指導計画
「学級や学校における生活づくりへの参画」の模擬授業
- 5 学級活動の指導計画
「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の模擬授業
- 6 学級活動の内容の取扱い
「一人一人のキャリア形成と自己実現」の模擬授業
- 7 児童会活動の目標と内容
- 8 児童会活動の指導計画と内容の取扱い
- 9 クラブ活動の目標と内容、指導計画と内容の取扱い
- 10 学校行事の目標と内容
- 11 学校行事の指導計画と内容の取扱い
- 12 指導計画の作成に当たっての配慮事項 特別活動における主体的・対話的で深い学び
- 13 指導計画の作成に当たっての配慮事項 全体計画・年間計画の作成とその留意点
- 14 内容の取扱いについての配慮事項
- 15 まとめと、定期試験

授業の方法

講義と演習（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション

等）を合わせて、創造的思考力を養う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：与えられたテーマについて自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。また模擬授業を行い批評会を行う。
評価方法：平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「特別活動」 文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（幼小）			17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
林 幹士	選択	2				

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒を理解し、学習上又は生活上の困難を把握し、個別的教育的ニーズに対して、他の教職員・他職種・関係機関と連携しながら組織的に対応していくための支援方法を説明することができる。
この授業では、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、よりよい教育方法や支援のありかたについて理解する。このためには、ライフステージを見通した支援について学習する。また、障害種別ごとに障害特性の正確な理解について学ぶ。これらの基礎的な学習をふまえて、個別的教育ニーズに対応していくための支援方法について、検討していく。

授業計画

- 1 ライフステージを見通した支援について
- 2 障害の理解と支援
発達障害①について
- 3 障害の理解と支援
発達障害②について
- 4 障害の理解と支援
知的障害について
- 5 障害の理解と支援
言語障害について
- 6 障害の理解と支援
肢体不自由について
- 7 障害の理解と支援
聴覚障害について
- 8 障害の理解と支援
視覚障害について
- 9 障害の理解と支援
病弱について
- 10 障害の理解と支援
重症心身障害や医療的ケアについて
- 11 障害児保育の基本について

- 12 発達をめざしたさまざまな連携について
- 13 小学校との接続について
- 14 思春期・青年期にむけて
- 15 これからの障害児保育・教育について

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業後に提出する課題60％
定期試験40％

欠席について

学内の規定に準ずる

テキスト

小林徹・栗山宣夫編（2020）『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい

参考図書

適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法			17684	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。指導主事経験あり。 総合的な学習の時間では、国際理解のテーマで研究発表会も行う。			

授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、外観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、発表・討議を通して深めていく。
また、総合的な学習の時間の意義や目標、各小学校の目標に沿った指導計画の作成、授業づくり・指導法についてのポイントを明確にしていく。

KaiseiパーソナリティーのI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

学校現場での具体的な教育課程、カリキュラム・マネジメントの進め方を伝えていく。法令や学習指導要領解説と学校現場の実践と成果（そこにある課題や悩み、子供たちの姿、地域教育力）とをつないで学生の理解を図っていく。
また、総合的な学習の時間の指導法においては、目標に基づいた指導計画、単元計画の作り方、事例研究、指導案作りを進めていく。

授業計画

- 1 教育課程改定の経緯と基本原則
- 2 教育課程の基準
- 3 学習指導要領の改訂の変遷
- 4 特色ある教育の推進とカリキュラム・マネジメント
- 5 教育課程の編成
- 6 教育課程の授業改善
- 7 教育課程の改善と学校評価(教育課程におけるPDCA)
- 8 児童の発達支援(発達支援と個に応じた指導の充実)
- 9 道德教育推進上の配慮事項(豊かな体験活動、家庭・地域社会・学校間の連携)
- 10 総合的な学習の時間の歴史と目標
- 11 総合的な学習の時間の指導計画
- 12 総合的な学習の時間の実践と評価
- 13 総合的な学習の時間の指導の具体的事例に学ぶ
- 14 総合的な学習の時間の単元計画を作成する。
- 15 教育課程論と総合的な学習の時間の指導法の振り返り・定期試験

授業の方法

学生の発表・論述を大切に、そこから生まれる疑問について理解を深めていく。学校現場での具体的な実践を常にはさむことで、現

場での取り組みについて共感を深めていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：与えられたテーマに対して自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。

評価方法：平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席は1回につき4点減点。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「総則」「総合的な学習の時間」 文部科学省

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼保）			17686	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、保育力における自己の課題を確認するとともに保育者としての役割と責務についての認識を深める。職務への使命感、豊かな人間性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力の基礎を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す。

授業計画

- 1 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
- 2 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任
- 3 保育者の豊かな人間性と対人関係能力(職場、保護者・地域との人間関係の構築等)
- 4 幼児理解や学級経営
- 5 保育計画案・教材の作成
- 6 保育計画案・教材の発表
- 7 多様な保育・教育を考える①
- 8 多様な保育・教育を考える②
- 9 模擬保育と討議①
- 10 模擬保育と討議②
- 11 事例研究(ロールプレイと相互評価)①
- 12 事例研究(ロールプレイと相互評価)②
- 13 保育の現状と課題、社会の期待
- 14 保幼小の連携と実際
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』、厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 平成30年3月』

参考図書

適宜、紹介する。

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。